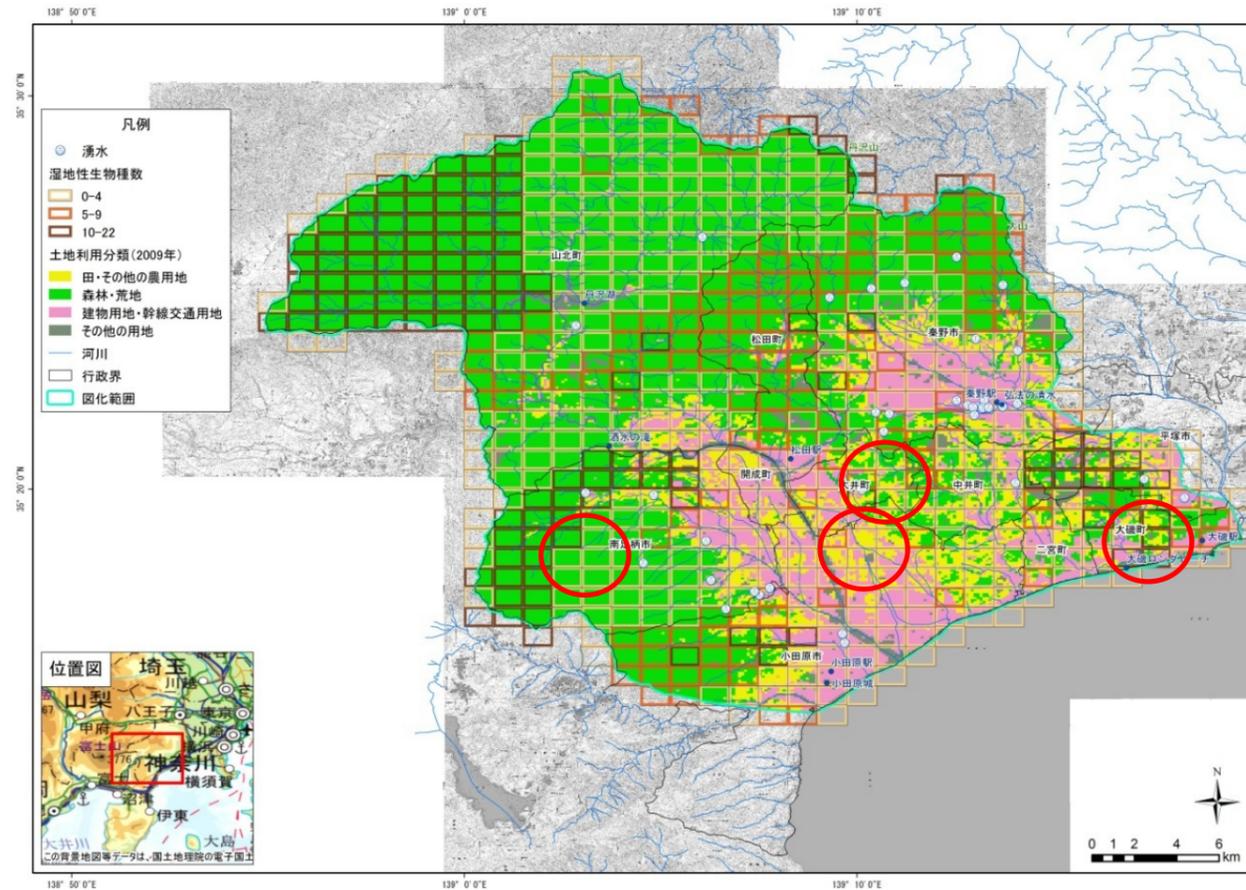


今後のデータ整備によっては整備可能な図案

『地下水の生態系維持機能に関する図』（神奈川県西部地域）

概説

地下水の生態系維持機能※に着目し、地下水が生物多様性保全に寄与する機能の一端を図示した。3次（1km）メッシュ単位で示した湿地性生物（植物と昆虫）※の種数と湧水の位置をオーバーレイし、それらの関係性を補完するため土地利用分類データをベースマップとした。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図200000（地図画像）、数値地図50000（地図画像）、数値地図25000（地図画像）及び電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平27情複、第758号）」

使用データ一覧

使用データ	データ名／参照資料名	データ／参照資料入手先
湧水位置	自治体 HP 等ネット検索	各自治体
湿地性生物種数(植物)	神奈川県植物誌(2001年)	神奈川県植物誌調査会
湿地性生物種数(昆虫)	神奈川県昆虫誌(2004年)	神奈川県昆虫談話会
土地利用(2009年)	国土数値情報土地利用細分メッシュ	国土交通省国土政策局国土情報課
河川	国土数値情報 河川	国土交通省国土政策局国土情報課
行政界	国土数値情報 行政区域	国土交通省国土政策局国土情報課
地形図	数値地図	国土地理院

図説

- ◆ 山北町北東部、小田原市北部、秦野市南部～大磯町北部では湿地性生物種数の多いメッシュがみられる。
- ◆ 秦野盆地や足柄平野、湘南海岸沿いの種数が少ない。
- ◆ 湧水は秦野盆地の南側、足柄平野の西側などに集中して多い。
- ◆ 小田原市北部や大井町、秦野市南部などで湧水位置と湿地性生物の関連性がみられる箇所がある。
- ◆ 秦野市南部や足柄平野西部の湧水の多くは市街地に存在し、その多くは都市公園等として整備されている（図21）。そのため、湿地性生物の生息には適していないと考えられる。



図21 秦野市南部の湧水「弘法の清水」

キーワード解析

- ◆ 地下水の生態系維持機能＝地下水が持つ多様な機能の一つ。貧栄養な水質、変化の少ない水温や流量といった特性を有し、湧水池や湿地など安定した水環境を構成する。昨今、市街地化や農地化などにより、湧水池や湿地は希少な環境となりつつある。
- ◆ 湿地性生物＝谷戸など湧水の流入する水田や湿地などに依存して生育生息する（生活史において前述した環境がないと生育生息できない）生物。本図ではデータの収集状況から植物と昆虫類とした。



オオアカウキサ



クログワイ



オオシオカラトンボ

本図作成における課題等

- ◆ 生物データや湿地の分布データ（大規模湿地を除く）は全国規模ではほとんど整備されていない。
- ◆ 湿地性生物はその分布状況から重要種となっている場合が多いが、重要種位置情報は保護の観点から一般的に公開されていない（公開できない）。
- ◆ 本図では網羅的なデータが存在した昆虫類と植物の種数のみを用いている。湿地に依存する両生類や魚類、底生動物などのデータは加味されていないため、実情と異なる可能性がある。

注意！！ 本資料の作成にあたっては、専門家の助言をうけておりますが、利活用にあたっては、専門家の監修を受けるようにして下さい。